文藝林和歌五十

特別
一4
8139

ヘ4 貴
8139

宮内庁書陵部

紫禁和歌草

順德院

建暦元年三月五首

立春

きさらぎ氷とけぬれば春風のふく

子日

松のひとゝせ小松原

山霞

白雲かかる小松原

谷鶯

谷川のうちいでるなみの

籬梅

春の

この比海辺の梅小風さえて春や昔八重咲く

若葉

ゆれつむ柳もえて春そらゝ野山ふかくも春の村雨

春雨

春雨に濡れぬる袖の春の夢中に見うしなふ朝のおもひ

岸柳

春柳のゝうゝ乃白波よりうるの緑ふかく鳴かの声

庭梅

春ゝの日ゝ飛ゝみの庭ゝ梅花ゝ雪の降ゝ花

菖蒲

夕附日花ゝ咲ゝて行ゝ春ゝ乃ゝ入ゝ日ゝの影

郭公

春ゝ雨ゝの晴ゝれ間ゝの夕ゝ月ゝ夜ゝ郭ゝ公ゝ鳴ゝ

卯花

夏ゝ来ゝ尾ゝ根ゝ垣ゝ乃ゝ卯ゝ花ゝ雪ゝ小ゝ卯ゝ花ゝ垣ゝを越ゝる白ゝ波

菖蒲

五月雨の軒ゝ端ゝ乃ゝ菖ゝ蒲ゝ彩ゝふゝてゝあゝやゝめゝ来ゝに家ゝを匂ゝ

躑躅

夕ゝ立ゝの花ゝ咲ゝ山ゝ躑ゝ躅ゝ色ゝ変ゝ乃ゝ花ゝ小ゝ家ゝを言ゝふゝこゝの花

鶏頭

かゝる火の河波ゝ乃ゝ鶏ゝ頭ゝ花ゝ横ゝ雲ゝ

立秋

今朝はまた指もとの色たがへる秋風ぞ吹

曉虫

秋ぞ入へてまたの日はなく虫の声次遠の峯の松風

夕霧

まがきすみ霞しまとふまもなくしたもとにまつ秋の雪

春霞

夕されば野原の秋の風ふきて萩の上葉ふかの色つく

萩

夜陰飛て夕ゆる秋の小萩原露ふ秋風ぞ吹

菊萱

秋ふかみ霜ふるまの菊の花ぬれぬ露にうつるかや

雲鳥

初雁の雲ゐ遠ふ一声ぞ聞くなる秋の空

夜虫

虫の音に秋ふかくなる鐘の音ぞ聞くなる秋也

霧月

草花ぞうつろひ散る月をうつる秋の夜

菊秋

秋ぞ今ぞ菊の宿のうつろひぬ秋をうつるの入おもひ

呼子鳥

神奈月呼子鳥ぞ鳴なる入おもひ

露霜

立田山さくらもみぢはいろかはりぬ　春の山風

紅葉

龍田川もみぢ葉ながれたえてしがらみかなしかけとかは

橋姫

宇治川の水もたえくよるとなくひとへ宇治の橋姫

朝雪

冬ふかみ雪ふりしきぬ宮ぢ山風ふく

初恋

我のみしたてる袖ぬ過しぬ袖の上乃涙の落葉見ぬ

忍恋

ぬるとなしに思ふ人ぬ逢ぬ白雲

尋恋

見るとなしに袖の涙ぬ袖の涙ぬ人ぬ逢ぬ

祈恋

立のぬるとなしに祈ぬ

待恋

秋の夜ぬ長ぬ思ひぬ思ひぬ

逢恋

逢ぬ思ひぬ思ひぬ月

恨恋

たのもしぬ月日をいたぬ過ぬ

怨恋

たのもしぬ人ぬ恨ぬ

いはねうし旅さびしき草枕かりにみし夢の人はこひしき

見恋

ゆくへしらぬ人にもあふやもろ袖の涙そ深き

久恋

そのかみの契も今は枯はてゝ昔のかほ山のはの月

関路

行かふ人の月も雲かゝる影とゞめぬもとめる末や白川の関

旅宿

かのくれをも山路のひとの夢の末は嵐の松風

野径

雅道はまくさの原のまよひなく分かへゆくいつれかおきの露の曙

眺望

ちるくもる山の端人は波のよるくもみえてゆふみなぎの花

海路

なくもれも舟のかぢをやめてけふは霞の中のあまと舟の月

難波潟やおりのかり舟に宮やゝもれぬ浪に春の世

山家

山家みさこ枝はかりいかにもそてもむちるにはこの人へく

閑居

人こともぬ宿はいもの秋のくれ我はむかしき夢の道の床の為

擣衣

秋の夜月のうちもさえ渡りて磯の声小夜ふけ
行

祝言

君の御千年代までも雲のうち松の山の葉風

同じ月に寄合春

霞めり岩間の水の春風にて色ふる里の梅の花

みし秋や行くらく雪とふるさとの花の色

夏

この比の涼のうちの夕やけ雲まこと涼かるべき

雲れよみうんうしも郭公初鳴の夕やみの月

秋

大空の空月雲の絶ふ秋風にく

月ふるもわれのみかはかなふる真葛原小萩こぼる

冬

象をうつ茅葉の霜の消ぬ庵の石ゐ井の

かれてうふを何と思ふまもなくその暮の名残

恋

なびきそうつまもそ思へと秋の人ふ恨ふる秋風吹

河まそう人をを身をも恨ふ恨ふ無の恋ふ

同じ當座秋海

伊勢海や恋ふ風吹くるまもに浪小荷ふ秋の夜月

夕恋

池水ふ浪ふ月まもりと雲ひ雲の梢ふ風ふ

同七月當座月照菊花

山の端ゆ出る月の光にはつ霜の色そうつる

秋出

中くゆ出る月の光のきりくすまして白妙の秋の露

又當座秋

月のすまもはく萩の葉に露のあはれ置ぬる

寄松恋

さのみやはつらきひとゝ思ひ海中の松に吹風

同八月十日當座深秋月

里人の月のつるる声もせで更行月ぞ袖にあまる

述懐

まれくいとゝ秋ぞ思ひ浦のとまりに出る月

同二年二月廿六日内々歌会

山中老夕

みな山の花の色ゝ夕ぐれの雲いなばの山の山風

ちるとやとまれる桜ぞ夕ぐれの雲ぞ山ぶきの

野外秋望

秋なれば野辺の露の玉ぬきもあへず吹ぬる

ちるとも秋の色乃あはれも如義の深き秋の野ゝ

同三月女房伯氏大炊殿へ

しるべ花月をとてあそぶとゝ中てもこ

伯氏の歌ゝ思ひ出ぬ思ひこゝもしの月ぶいてうつる

[illegible]

此大歌殿去年五月重病中為道方朝臣
以下女指寄仙洞良久返事持来俊見
若不能注

三月庚申朝三首ハ晴人當座

霞隔殘花

[illegible]

暮春曉月

[illegible]

今宵ハ[illegible]

山人の家とわくる曙の[illegible]

深夜待恋

[illegible]

[illegible]

同[illegible]殿歌當座　一首中落花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同[illegible]當　山花

[illegible]

百月十百詩歌合部 風雪 始中 今度

山花春曉

梅のはなのかをるかぜにさそはれて花ちりぬるあけの山ぢ

人とはぬまきのとぼそにあけくれて山やこもれる春のくれ

水鄉秋夕

ふる郷の梅のうへにも雪ふりて秋乃夕くれ

神よの又 いく秋よ月のかげのあかしの浦

霧中眺望

ひとすぢに霧のこめたる山ぢ出て月ぞ

はるかなる人見ひとりぬれ月ぞよのうちやすき

同廿二百歌合 羇旅

旅ねの雲分のぼりて篠ふく神ふの白ゆき

暁郭公

郭公なくこゑ聞ぬまくらもとに月白ゆき

田家月

かり菴の月をうつして神のうへふる稲葉の末の露みそる

深山雪

松ばかりきえのこるもいとはしき槙の葉ふる白ゆき

後朝恋

あるをこそ神ふるもうらさの恋ぞ

月出富士松風如雪

山おろしの松ふく風に秋の神よ雪ふれて

月前水鶏

[illegible]

朝曜麦

[illegible]

同江當座　松間時鳥

[illegible]

水上月

[illegible]

同江當座

[illegible]

水上月

[illegible]

同江當座　海上夏月

[illegible]

又當座題

[illegible]

春

[illegible]

同六月於大内禁庭行歌

[illegible]

同江詩歌合當座論　七月

[illegible]月の傳ある海士の釣船
[illegible]

山寺花

[illegible]

七月會當座　野雲改題

[illegible]

恨落梅題

[illegible]

同初秋海晩風在秋

[illegible]

野花幾用

[illegible]

橋邊秋月

[illegible]

[illegible]

不忘級題

[illegible]

同八月　三百番歌合　八月

[illegible]の浦や月に昔は[illegible]

暁山鹿

霧の海に[illegible]小男鹿の声

同月行[illegible]

いくとせふるかさらぬ[illegible]月[illegible]

草花満庭

雲井行りの波もふるの色よりうつる萩のうへ

秋風憎恋

こぬ人をまつとはもうらぬ[illegible]

同沈黙座　山路苔

凡ふるやしらぬ[illegible]

羇中夕

[illegible]

同日黄座　寄雨恋

思ひ[illegible]

寄水恋

[illegible]

寄篠恋

[illegible]

同沈黙座　恋

[illegible]

[illegible]

身しやそれかと斗みえし月ハいつの形とひかり営ぞ侍らん

同比當座　玄久

故人の見る山ちハ海となりぬらん霞にかくれし岑乃松風

夜暁

郭公聲乃とこや明かたの鐘ひゞく山の端の雲乃まよひ

秋朝

萩の花さかりの野への朝露をとけ落る露まくらかな

冬夜

袖の上もいくたびかゝり志ぐるらん物おもふ宿の夜半の月

同比合詩合當座　野亭月夜

さむしろや床の上の秋風の音を何とみ月に[illegible]

暮山紅葉

夕暮ハなをくれなゐの錦をきて山の紅葉ちる松もなし

又夜比當座　秋深水声

雲かゝる山のはしらむ瀧川乃水よりみたる夏の夜の月

月影ハなをたとへもなく吹山のもみぢ秋風の声

同頃比當座　舟

何事も波に浮かれぬ雲の上を行く水の上の舟

風

秋風やうちなびく荻の葉の[illegible]あさぢふの月

秋

秋の来て[illegible]中の月やまちらん

又當座　海月

ゆくへしら塩風寒く雲晴て月よこになるあまの釣舟

野月

月の行峯乃うき雲吹たえて露にやとれる野への風そ

九月十三夜同題待歌合　山路月

山とみへとさわみ色露もまくもかゝるかなる袖の月影

こえかへしも秋ハ又いさよひまた七月の名にたゝし山路の菊のうへ露

同比秋十首合

今ハすよ寝覚ハ秋のさひしくて枕にふれるほとも何ら風の音

秋ハいまくれゆき行く末の空を惜しくも調て冬に出ゆく

おきて見るつきのいつまてか庵の名残秋の山風

吹風ハ秋のまくさのこの月に忘れて浪乃夕雲

袖の冬に秋しもいかにたゆたん人もいくよの荻の白露

忘られつる秋の夕日の冬かれにすかたの鐘も今

露ハ今いく夜の袖にしたへ人の枕にかゝる夜半なれ

山姫のそめぬ袂もうらみぬ時雨の雲乃嵐よ

梢く秋をたちとまれと名残の月やともに袖も涙晴て

をさハ山路にまるぬ時雨にもさそハぬ空ハ松風そふく

同十月廿九日夜白大業會次第とりんて

修成御母

天満宮の御法楽墨ノ百代をそのまゝみそきハ

逸

[illegible]

同十月廿當座　秋晴

[illegible]

野邊の[illegible]

同廿當座　恵

[illegible]

同廿会詩用詠勅字題哥　當座　雲

[illegible]

暁

[illegible]

同廿當座　落暮　恵

[illegible]

故山の[illegible]

故山　恵

待人[illegible]

落泊　恵

わたつみの我身こゝに流るゝ[illegible]

関路　恵

和歌の[illegible]

海邊　恵

[illegible]

同十月九日會

行路秋歩

むかしこの[illegible]

鷹狩日記

かりたてる立もとめて雲の中よそ風と色ろ天の川色

来不留恋

大くこの月をやかろもしんかもしかるに

同和隠題名探る紙こ　直衣　袖毒産

みそもとたてて　せう飛色の月雲の筆手　寒花より

藤蓋の毒ふを

毒ふを形ん多よにかひつて下恋ふ紙こ産の紙恋

建保元年三月十日　行源主色

恋の日乃ちきよりる多の海こ緑ふ紙産の長年

同三月十日雨流　遷年後和合　同こ

松浦地方

霞ちやうひの浦ふみ松ちうこぬ恋の多郎

同治良平の大内花ふまりるとはでき

散ちらしさえ恋乃色にいつるみきの主はうまく

歌　　檜大納言良平

昔よりの恋のみゆきふりあを何中くはいつと行ん

同治於水辺郎中當産

大井川恋も嵐の山風よ花のみちこ乃中や紅ちん

恋ふみ松の志月えよ色そ人こ檜よかり逸の有波

又當産

いけりの思いあちう紙ちりり月夜ふうん今花の紙ま

同じ十雅を人〳〵分て歌ゝ　當座

長高松

[illegible]

為玄松

[illegible]

同じ當座　忘題

[illegible]

恩昔恋

[illegible]

同じ當座　山路花

[illegible]

竹春雪

[illegible]

同日春當座

[illegible]

この[illegible]

同じ當座　月前花

[illegible]

西中燈

[illegible]

同じ當座　山路帰鹿

[illegible]

かへる人の袖乃衣にきをりへ雁の翅乃おくれをしる雲

山霞

見よしめしもみ吹まて山風よ花かとまさまる乃月

野梅

二月や野への梅か枝をりそへて袖にくるゝ雪の路は雪

同比當座　鶯

覚えるの春ひも声もさまりにほひ来の春はとうしよ

暁恋

逢見るさの袖をもくる女とひは眠まち出山の端の月

又日當座　海邊暁霞

浦人の衣かへつ雲の日にうきてたるれぬ又霞るを

深更春

月影はおほろの雲なりし影さへしられぬ雪の村雨

同比當座　霞中聞鶯

家井まる聴への霧も鶯れ鳴く暁声は霞のさそり来る

五月日　恋十首　寄雲恋

秋の雁羽うちつは白雲の外と中其の雑を待てん

寄風恋

露うけみそてに葛の風にも我身のうへは恨そらむ

寄雨恋

下荻の葉かりは雲に頼しもひと小さひの夕くれ乃雨

寄水恋

みる潮のくもりもなくうつる月影は海の底まで清きなん

寄草恋

松くろの松ふかき草の露の秋うつるぬるもしぼるる泉

寄松恋

沖津浪梅の花くんま松の方をうつる風の何ぞほうん

寄竹恋

竹の色はいつもみどりの露の清きもひてめるとてうつる影

寄衣恋

衣手に田子の浦浪うつぬまも大うこ袖のあれぬ日そなき

寄花恋

草花はもとあかの孫の夢をうつしたりて移よこ無ぬ色

寄篭恋

行ふこ思人をもうつれ思さうの俤をうつす袖あれなり

同七月　夜野虫　當座

秋を花むしと草の村雨と鳴虫の声もやあの夕ぐれん

やうき雨をうつ〳〵やうる秋の夕野原の草虫の恨

同廿日　七夕

天の河浪漂ふ波立雲のうつるもの〳〵俤ふ袖ふ

夕風

風うつる秋ぐるうこの夕ぐれとうつる和と心ひ秋ぐれん

独酒

ひとりしも雁つのうつ初尾花まつうつる雁の音ふ

田家

時雨ふる小田の刈り庵しばしまをかりみ廣の稲をくぶ嵐

曉嵐

いかつ山我降ぬ山の紅葉をふるのあらたのさ系

同沈當座　詠月

きりぎりすの秋を告よ山ちりて月さこゆる夜半の山

山居

月こうるまきの葉ふよふる音を掛ひとあぬ夜の山を

同月當座　曉侍郭公

入月のあはよ出よ河ふるのとちらさ紀よ(ろん)ふ夜ふ

泉邊曉京

又當座　秋

秋山の紅葉ふる葉乃うへよりてくく的風ふ

同八月七日歌合　山曉月

月ふ夜ふ的の山乃ふ

秋久風

秋ふ家ふ秋ふ色の花ふ夜ふものあれてのまに秋風ふ

同朝月

ふ人ふ字ふの河ふ月ふて十ふ方人の秋ふ名(京ん)

同沈歌合　野月

高瀬野ふこのもふ色ふ月ふ心ふ秋風ふ

山蔭

[illegible]

同十日題十首　音羽山

[illegible]

小塩山

[illegible]

嵐山

[illegible]

常磐山

[illegible]

葛木山

[illegible]

三舟山

[illegible]

信太山

[illegible]

石瀬山

我恋に人のもしらぬいせ山

妹背山

いとせ山[illegible]

[illegible]山

[illegible]

同八月十五夜　月前露

大くらの茅ぶき月はやとりかねてやとりかねぬ秋の白露

月前風

月をめて何と風乃うちはらんうの毛衣秋ぶかき

月前祝

たつなこの沢乃よれ湯の月みもむすに思ひ出ること

同夜當座　浦月

湯人も老月ふれて沢神のうへよいくらふれて流の月新

野鶴

秋ちの家いかつの風あとは風を分ぬ秋うすに新うへ

秋意

今更よ思ひ出でそもいくせんくを乗毎の心ちうひい

又日當座　郭見紅葉

いつ月日を秋とみるこの山ぬに光ちちふ冬の紅葉

山行休康

さそ〳〵れとも今声も風うけぬ帰る山路の月の出ん

同當座　山風

風ふもも〳〵雲まのうに松ぬ山ぬ秋の名ぬ

恋意

志ちうちうなめ出ん行のうちうまに木ぬ毎ぬ

同沢當座　紅葉

ちるもふせぬ松ぬ葉ぬ嵐ハさもそそうへそをうに山の秋乃風

同じ當座　夕山家

秋ぞいへ　[illegible]

さをしかの　[illegible]

又當座　秋夕山家

[illegible]

深夜鹿

[illegible]

同當座　海邊嶺恋

[illegible]

曉郭公

[illegible]

水上月

[illegible]

同じ歌合當座　田家秋夕

かと田[illegible]

山路曉風

[illegible]

[illegible]

寄海恋

[illegible]

[illegible]

又當座　曉恵

[illegible]

又當座　恵野麻

[illegible]

同九月十三夜会　江上月

[illegible]

張宿恵

[illegible]

暮山恵

[illegible]

同月歌合當座　杜間麻

秋をたづねしもとゝぎすの杜は海の風の音小海せて後時雨

芳潤恵

[illegible]

芳舟恵

[illegible]

同江當座　川上秋

立田川秋もゆくへの山ぶかみ[illegible]

[illegible]

同月十九日　寒海藻

[illegible]

寄船恋

家木なく小萩か上の露よりも風を待まも人そ恋しき

寄河雑

ちゝの川ゆく宿河原の色に出てねをふかくはわれを住きん

同比當座

天の山下風の故郷を花よりそとふ雲の月

積つる比ゆも今は船人のたのみ月本とやれならん

よわてるやさゝ波白き月のかへる船ともよひの山も

寄嵐をる岸の嵐よふる夜は月よ暑めはたりも

草見気志をよ見嵐をみれ月よりをの頃は吉もて

まさきの影乃名もりある月影を行そひしてふる雨

雲秋乃いくよの月もみつめきて忘しかたと雲の上人

同比當座　述懐

津の国の海山人の志かりして波の下の頃の行末も

祝言

君の代に行末ほしてさとれ松も千年の緑またとは

同同九月十九日歌合　深山月

月の名も山のたかきみちの奥は人も見えけん

寄野恋

あさちふや床はあさちふのきりくもなるかる人の袖しを

寄風雑

立田川すまとも秋くれ見わたの行くぬけしき風よ住て

同盡日乱吟会

いとゝ月すみまさるとかゝる水の白波

関月秋

おぼつかなゆくへも鳥の渡るくゝ夕の雲

野霧

袖の露の玉ぬきかけて野の霧の白波

夕河霧

秋さらす夕の雲乃色もしらしけるをいそのはらしの雲

杜間霧

さめぬるかとゝ思ふ夢の秋のときはの夕雲の色

池邊菊

池のよ花ぬきかけて菊の露乃玉ぬきかけて秋いろ〳〵

山家草

あはれまさる人の心を草の花山の麓に秋ふかし

暁擣衣

ふるさとの人も恨の夜の月よ砧の音ぞ秋の風

旅の風

宿いねぬまくらに秋の野辺なる風の音

関九月尾

年のうちに秋くゝまる雲とゝに月日のそてはやはん

同仏像成女出家とゝ中言葉

元の代の春の子年と秋をこそ石の仏の形

[illegible]

捨て月毎このよみてつゝ[illegible]

返し

いのりてこゝの[illegible]

思ひいそんむ[illegible]

此よをとゝさてをいふとて[illegible]

同じ當座

[illegible]

湖上旅

[illegible]

秋やうん秋のゆふ[illegible]

同じく久[illegible]

當座

[illegible]

同日深川冠

當座

[illegible]

同日花ゆる月雪を一首よ詠 安

[illegible]

同十月ゆ[illegible]を 當座

[illegible]

同十一月當座 池上月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同霧　當座

世間も霧のうきぬるとこきのとやまれ風をさいくらん

同十月八日當座　初冬霧

冬こなぬふとをとしかのそそとこ山もの名をあらしに霧深く

曉山風

つまとりの名のの月やまるるん我かこ　され庶乃山風

後梅恋

恋しいの今ゆこあ的こ為のうきとんの乃うきまん迎きて

同沈當座　同月

あ山坂の宮乃清名のこ　これるをのれけうら秋の夜の月

秋月

寒も純ふいこ前めれを秋の夜乃もを山ひよ月いみうとを

号寄恋

いこせん寄しねこうつるちのをれつこたよこいめ恋を

十一月當座　野宿霜

ちこひ行ぬてつこ風ふみもいく恋こ乃下寄

池河面

雲かる雲まて乃こを時雨こて声をかこそ池のさ波

隠居後　恋寄

我なこ行ゆしくめこて紋こ乃猫恋いぬいかこ乃霧乃は

同十二月當座　紅葉朝寄

雖波紅のゆ面ゆこ面ゆこ乃日新まこ乃寄て空ふ乃

延保二年四月十二日　梅華多雲

[illegible]

同月　當座　松陰春色

春きてはいつかもとめぬ[illegible]

山路梅花

[illegible]日山さくらやこの花梅ばかりとしらぬ[illegible]路て

同二月　詩歌会　川上花

吉野川[illegible]水乃[illegible]ふ[illegible]花乃下風

この花にたりうしなるもあらし[illegible]の[illegible]みの山川の

郭外霞

[illegible]

むさし野や[illegible]の[illegible]の[illegible]の村[illegible]

同月廿三日　高湯院殿　水堂澄月梅

[illegible]

水[illegible]山[illegible]

[illegible]

みなせ山[illegible]

同廿[illegible]於南殿[illegible]　當座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同三月十日會　山落花

初瀬ふるつちふる山ぢ雲のきしのもとさくら花ちる

當長月

ゆくとの川ぢをくやく行水よりはこゝろて月をとゝめ

曉惜恋

こゝまでいふ秋て思ひあるけきたよ思ひもつる雨の色

同日雅經卿八重櫻ゆ海ちを分て新人

廉光ゆきもとゝしてつゝ重氣

ちをかゝこゝある一枝の八重櫻のこゝにとゝまりし

ゆく廉光ゆきのおりて

春をわゝこりつる花もれ重ふかとふ御ちの袖そひまる

同日迷懷　當座

わゝこの業乃ちて家をのつゝ行あ世ものりん重そん

面ゆ雪ゆ花なら出いゆ月ゆ出ゆ行やゆりるん

月を雪くもちとゆ中ものんつきゆみのゆ新ゆ出ゆりん

同日雪鳥寄　元十二月　當座

ちゝ雪の姿のゆゝ雪ゆ梅ゆ雪ゆ鳥ゆ風ゆ吹

きゝそそそゝ雪のくつゝのゝ雪ゆ雪ゆ雪ゆ

雪ゆゝみゝ月きゝ雪ゆ山乃雪ゆ雪ゆこゝ雪ゆ

郭公なゝや雲間の雪ゆつゝよゝ月ゆ花ゆ月ゆ雪ゆん

まゝゝの戸をゆけてゝゝひるゝ人ゆゝて乗ゆのゝゆる雪ゆ

夏の雪乃やゝいゆゆゝゆゝひゝゝてゝゝるゝゝゝる火ゆ

秋いゆ我物ゆゝふ宿の萩ゆえゆ鷹の源乃義ゆゝゝん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同　沈黄月

山橋霞の海ちらへ八重のちさに春風うゝゆく

大てゝや嵐も八重のをてうしまい緑乃ちやそてん

川柳

小春潮河柳の春乃春月よむとはぬるもしをうまつ

春の多やかり月川の乃柳張春月えい波のもの河へ乃

神紙

そこ河山ちさなりしの光乃山面のうち乃春れもしう白

[illegible]

同　月　会　玄恵　　黄月

恵乃のみ春えうれ武春まてうしをゆて人乃毎ちりう言

人春まこ恵月いうつせみの春まれもしの(神ふ)ゆうう新

秋恵

[illegible]

[illegible]

同七月　月　会　黄月　　柳秋新

[illegible]

野菊花

萩うゑさくらんをの秋ふめて井乃神はしら庄

夕山風

京染まいおくてに思ひ為を為る秋乃山路

雨後月

秋の雨はるの物と訪て掃ふ嵐よ御月け

霧中恋

いのちやおくてあるはの京都とうか見もおもはぬ

同江当庭　七夕

七夕の星行ひ乃宣はれ夜まとをに秋乃月を待て

山

為う為もいまやこ行もし山を乃岩田のをれよ秋風を吹

海

きみのの浦まわをてみわの月うみのおもう波

同江歌会　当庭　当江月

志ゆををうたまひのまこと地ふ緑ふをむ長の月

秋野虫

風の為ことをうみても野原い秋乃松虫の声

初冬雨

月はいとく地く来乃れしよ嵐の末よ時雨初雨

景花恋

京恋の為ひとうよ有りぬ寄まつ為乃物と川風

同中雜

[illegible]

同江戸御殿南殿新月前松　當花

今[illegible]

同八月十五日　月前竹

竹の葉よりもれくるかの秋乃月の代もやはらぐ桜のうん

同十六日　乱会　秋風

[illegible]

秋の[illegible]

小山田のかりそめ庵に家とりて我衣ふる秋の[illegible]

秋月

[illegible]

秋雨

[illegible]

秋鷹

[illegible]

秋出

秋の野に尾花ちらせる風のうへはいりう[illegible]

秋虫

[illegible]

秋鹿

[illegible]

稲花

秋の[illegible]

恋水

人毎にいひし井乃清水も昔にて秋そかはりける

秋霧

霧ふかみかりのみちすへ声のさえ物あはれに恋風そ吹

秋猿

行末を思へは久し女子か袖ぬらす山乃秋乃夜の月

穐旅

旅をしてまたにしみきくのこゑひのくま川の秋の夕暮

秋恋

忘れなや風もむしの秋の露ぬれしはかりも似ぬ人の袖

恋懐

秋も恋月も雲井のそれならて昔を今と思ひ出つゝ

恋雑

高砂の松にともなふいまさらや尾上の霜のきえなはん

月次当座

かきりあれは哀れにも思ふ露もはし秋の世の中秋の初せ

唐衣も恋の哀はいかならむ忘れかへす浪のなにはのあし

龍田山まその紅葉や散りまかん桜の花はちるはなそ嵐の風

又当座　冬柳

なには乃桜木の柳あしも風に志られ冬も志乃はれそよかし

冬

難波江や蘆のかり穂は霜かれて恋見まての月をまつかな

述懐

いなんかのふるさとなつかしき我のすみかを思ひ深

同九月八日名所擬方会　秋

月の海原玉川の秋風小夕の雲も立ぬ宮や形代

さしてをるかとうたがはるる浦漕船の月新

みつ野の青根の峯の夕時雨ふるとはなしに風ぞ吹

かりくのいるかの雲もまばらにまもしをくよ秋風吹

ものすごき秋の夕の嵐川いてこそ波よ嵐なりし

同比恋

さてもいつにあらぬ月の夕うら柳かの秋小枝てふるある

そこにのこる思ひの雲霧男山も今ぞ分るあり

同十百七条院より内少将内侍の許へ

名ぬ乃恋をたのもしのちにかりかねも

ひとりあり雲乃うへ秋ぞしむ色ぞかなしき秋恋

遠く世界よりうりて　海の安楽寺

雲のうへまでもあり秋乃恋形ぞうらみ人ぞ

同十三夜會　月前風

忘れつる秋ぞ今宵風を忘てや月の心をあらん

暮秋恋

秋ゆくにたのみ山の下紅葉ぬ色よいはん

寄海恋

源より思ひ入りぬるいそ松浦乃こころ

同廿四日雲客方会　野経月

山のそら月はさえ行くあらしかな　[illegible]

霧中鹿

夕霧の[illegible]

[illegible]

為を秋の色深月はてもなき限の空は海雲

同九月廿日　坂方会　月落葉

[illegible]

[illegible]

深山雨

[illegible]

同日人々[illegible]試験　[illegible]

出類之家　松浦暁風　一の淀宗

松浦川[illegible]

吉野[illegible]望

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

待友惜燈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同所社頭　當座

[illegible]

同所當座　野雪

此沢を野雪とは[illegible]

嚴雪

[illegible]

朝恵

[illegible]

[illegible]

述懐

[illegible]

自建保二年十月二百人九歌供始ゝ毎月旬
日詠ゝ各三首ゝ満百号語顔子鉢及的
年不更他詠ゝ

時雨

[illegible]

水鶏

[illegible]

寒さ哀

嵐風の吹へとめて庭の雪をかきみ霧深なり

芳山

みなひて霜葉の句ひ神ぬひの山下風に雲やさゆらん

松風

ゆうしぐれさそふ山けの松風ぬ夕の嵐ぞこまれる

曉海

反歌の時のけゆく時まの霜を体くしの月いさ雲

芳川

思ひもよ我為ぞこれの名残川とのぶらも雲ぞ

芳舟

雲の松ぬ柏葉の雪をかりにてもうしの　雪の松ぬ

芳雪

雪をうに袖と思へ世の中ぬ我身も人ぬ消ぬいうり花

寧筆

年を重て名のみ残りぬ水くきの跡

宗節

うすき松ぬ風乃玉ぬ雲ぬ月ぬ雪ぬ

芳笛

笛行もうへの風ぬ行ぬ雲ぬ月ぬ雪ぬ

山家

ひさかぬ小ぬ山ぬ人ぬ雪乃雲ぬ

羇中

[illegible]

張洞

[illegible]

冬暁月

[illegible]

山夕風

[illegible]

江冬世恵

[illegible]

沈凍

[illegible]

早梅

[illegible]

嚴誉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方遠

雪て行方をそなる海の内まとに玄三郎しるこ

泳浴

夕ゝ方うみの海とにうる船乃かけても船う方を行ん

閑候

むつとともまく月乃山乃ふもとに白乃乃上人

延保三年　四月十四日　山三郎

夫のようと河内ふりみゝ山本の氏なるゝ玄八郎なり

夕若葉

若葉はむ大文人の内う夜りをみゝ乃多やこの夜

翁子日

出暮や子日の松乃来てとにるし家毎に祝そ来るゝん

初出月

出ゝ出ていくよとゝ内ゝまきゝくゝ桂乃ようう山の端乃月

羇中雪

松山ゝ内ゝ雪乃白雲よりみやとゝん雪乃声

谷幾雪

谷ゝくゝ雪乃をくまゝ紅乃ゝ幾ゝ内ゝ山やくゝまゝ孫ゝ乃日雪

関路霞

松ゝて雪乃雪乃霞乃如ゝみとゝり松ゝてゝ乃玄ゝみゝ童り

春駒

かけろゝ乃とゝゆゝ玄乃駒乃新ゝ乃ゝ乃ゝまゝ弱ゝ玄ゝ乃ん

[illegible]

春野風

[illegible]

寒梅

[illegible]

又柳

[illegible]

和海石

[illegible]

又蕨代

この[illegible]

朝菜葉

[illegible]

初山花

[illegible]

喚子鳥

[illegible]

谷蓼

谷川の[illegible]の流を[illegible]

櫻花

[illegible]

桃花

[illegible]の桃の花の[illegible]

花蕚

[illegible]

歌

[illegible]

躑躅

[illegible]

玉兩

[illegible]

躑躅

[illegible]

[illegible]

歌花

[illegible]

三月尾

櫻花

[illegible]

更衣

[illegible]

新茶

[illegible]

卯花

[illegible]

初卯花

曜麦

百舌鳥の富士のうく火いたのつ曲て月りて野の桔梗の花

暁蛍

ひくるを玉ゑ乃乃かひらも暁けて蛍乃乃

夏草

夏草いたけ里ともゆくらいあ庵の野中の清乃ひ影乃之

夏雨

さうとう富ゑ乃さうい小の雨て松まるれ人立の花

雲月

ひさうきりふるを乃清乃の夏雨雲白き月乃光之雲

夏風

夏ひいたる乃の乃乃萩むて乃雲のひる秋乃風

菖蒲

五月雨乃ま乃乃ほ乃乃根ゑてあやめ乃ゆ乃の里人

夏橋

橋乃乃の風ひ乃ふ乃い乃ゑ乃乃乃乃乃

蟬

木のゑふ乃ゑ乃せみのうも乃乃の乃ゑ乃

泉

むとうゑ乃井乃小の雲の月清乃乃乃乃

水鶏

月乃乃模のいとゑて乃ゑ乃水鶏乃乃

恋歌

[illegible]

夕日さしひの山の本陰より涼しくゆく六月の空

雲峰

[illegible]

鵜川

うひ船の紙よこうづよ漕ぐこゝろひの月にもう隠

雷山

涼やかに立ちる雲下雨もよむめきみてらさくしたの水

夏月

[illegible]

照射

[illegible]

夕立

[illegible]

蚊遣火

大ぐこの民のうまとの夕煙下より絶せぬ蚊をやの乃ける

見恋

[illegible]

夏雨

白雨とみてふれ来ぬ山人の袖はふりぬ雨とすちとち

六月桜

月ごとのいろとをせきとめて花ぞ咲ける水の上

芳雪筆

万代をいはふもむべの山の端に雲ぞかゝれる峯の白雲

山和歌

その名をあらはすものやうらぶれて秋の末なる花の色

待七夕

月ごとに待ちもなれぬる今の空よ天の川瀬

野徑蘇

咲きて散りてまた白菊の花の色の秋ぞ

池魚菊

うの池の波のよるてゐる藤なみの花のうきたる流もかくやあり

関孤蘇

藤の色ふかくうつる池をあらはしたる数かさねよとの実寺

女郎花

白露もかゝるばかりの女郎花なほ花ぞ咲きまさりける

蓮

なくよりはあはれ乃毛蓮の後代秋しらいつん

桂花

秋ぞあやまもるの山代ゆかしかりてもいとゝ花ぞ

刈萱

をのゝ乃へ乃やまの秋の風ふるの乱へなり

夕鹿

[illegible]

曉見月

秋の[illegible]の月の山の端小松の葉白く吹[illegible]

野外月

[illegible]

秋閑寂

里人の月みる山のすまひまで心をつくる小男鹿の声

関路風

月の夜の宮の[illegible]水落を宮とも風の吹きけり

庭上義

百里や玉のまくらの白雲をしきてそ[illegible]

秋曉

宮[illegible]

海夕

秋さてい[illegible]の[illegible]

秋夜

[illegible]

結願

[illegible]

月十六日

[illegible]

松間雪

延保三年三月十六日　鶴仙齢

[illegible]

同三月當座　夕花

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

同卯花

[illegible]

同春雪松梅　當座

[illegible]

同日訛諧寄帰るを　當座

[illegible]

同月當座　月前卯花

[illegible]

同月花雪不知或人のもとにてのこと

初文字いろ

さくらの[illegible]

同月花雪不知

[illegible]

同月於萩戸當坐　夕五月雨

[illegible]

晩恵

あるきの後も祝はあるべきなれぬるうちにて園乃月新

同沈南屋　雨中菊

萩を結ぶ庭の秋乃面よめれてを行んとする人のあ

類ふる　源欣意

月もしとゝにくるしきまのもの武蔵てゝ成るまの月

世界に新古知るべく今般宗家隆て時お意

文芸を書くべき出世事多可陪て

同沈意　當屋

月のあを野をかけてなるもまつて暮もむかきこれの山風

照もせずとあるまもしむ月ゆゑ今りもてて人乃俳

同六月寄合南屋　蟬　於ゝ蛾近

家の多しとり乃ものの後秋ける人涼きせみのそ夜

後返書意

らしくきのをるめがるみ乃ものつ屋つきの高のそ屋

寄社頭雑

秋ちるものとのしくるる山月は思ひ初て多やそゆん

同沈寄合　南屋　友野風

山月もしをそ中の多茶小秋中乃ものの記をるつて

深秋意

その葉や主力ゝ秋ゝ人ゝやまゝ多ゝ思ゝれて

芋海雅

屋をゝ新乃海の主秋のあるをるとしけをそつきあるの浦ゝ

同江當座　山麓

[illegible]

社頭

[illegible]

同江當座　[illegible]

[illegible]

同江山栗下　[illegible]

曉月入窓

[illegible]

早涼思衣

[illegible]

同廿八日会　水邨柳

[illegible]

江上霞

[illegible]

[illegible]

久[illegible]

[illegible]

[illegible]

山曉風

[illegible]

[illegible]

曉月

[illegible]

同毎日　[illegible]

[illegible]

同七月七日七夕七首

天川[illegible]

秋なりとあさせ[illegible]

七夕の[illegible]

年[illegible]

秋来て[illegible]

大[illegible]

天川[illegible]

同月當座　山路紅葉

[illegible]

[illegible]

又當座　秋

[illegible]

同八月海辺眺望　當座

[illegible]

同江當座　樵夜

[illegible]

月

萩ちるや人よりまさる秋の末　底風よ波の月新

同　紅山夜月明るい〻詩歌　蕉雨

何ゝら落かゝる水の音うつゝぬ入山の花もみの山月

同　八月十五夜月前竹風

天涯風人の世代万代よまれあらうる秋月け

月前擣衣

風吹やまの月に夜うつ衣の声そちらはく

月前眺望

めぐり行山の末ふを出あり月は河面のもゝる多ふ

同　夜雨望　樵底

雨やみの秋の月乃白露よ虫の移ひき秋風そ吹

雨中恋

いとのゝ〻ぬるとも雨の夕をも待居き和とおもはや恋まん

同　廿一日平合　蕉雨

初潮山川寄さしくみふら様の里も月やともしん

夕月恋

嬉乃月のうら山の夕雲ふ河面もかゝ雲の行あ

同　江當座　玉

雲乃末ふ〻ら秋よ〻ら花ふ羽泉此雲かゝそ月乃

交

ゝゝ雨形り流のゝ〻ら乃ゝ〻ふ〻ふ〻雲乃月の光

[illegible]

雜

[illegible]

又待月　當座

[illegible]

同七月廿一日[illegible]

[illegible]　當座

小男鹿乃[illegible]

田家秋月

風わたる[illegible]

門田[illegible]

同八月當座　野亭月

[illegible]

川曉風

[illegible]

野外夏草

[illegible]

月後似秋

[illegible]

野亭待月

[illegible]

同九月九日撰方会菊花月次菊

久々のそらの色よ菊の月此宵にとゞめてしがな

水邊菊

白菊の花乃ちりよ行水此さゝぬかけよ惜ゝ絃ぬ色

寄菊雑

公ありてよりしらるゝ山ゐの松かよさける白菊乃花

同十月十六日菊下會菊会後数本頒荻

戸前月照菊を喜人と詠三首　養笛絃

うつゝとてみるこの菊乃初霜よ枝しゐて乃月そうつる

天漢星光をうつしとゞめ水底ぬ菊のかけやせくらん

花ゝうつちよまつ時し諸人の秋をうゝゝ乃花此さゝ菊

同沈酔菊

菊花

小雪時分の山ゐ乃ゝ月ぬゝ菊ゝ乃ぬ乃ゝ(の)かり人

同九月沈菊会　杜同席

同ゝゝの波やゝそ此乃ゝ秋といゝて乃杜此下風

深秋出

出の菊ゝ乃ぬ乃秋乃也ゝ乃ゝ称る秋の風

月前望

物ゝとゝて乃ゝ此ゝ乃ゝ乃ぬ秋乃菊も月よ乃ぬ乃ゝ秋乃月

月海恋

ゝ乃ゝ此ゝよ人よ山ゝ乃ゝ波乃ゝ乃ゝ乃ゝ根乃ゝ

寄鳥恋

鶯の音になきてそらに年月をさぬれたる袖の春雨の空

寄夕恋

まつくれにまつ秋更けむかしこそ人をく恨みの夕暮の空

同十月比雅経朝臣東国のくたりけるとて

人より女房中にかよひける

しられける袂は宮こをとほくとも見ぬ程なれど神のなこり

返し　女房よみ人しらず

拝見んすらは時雨の衣手に小雨なくそきさき雲ゐゆくとて

同十月廿四日名所百首人々つかまつりける時

春歌

音羽川

音羽川山よりや春の都にはまんせんは霞にて花を見の下る

白河

白河や川波の波の花りて露よりも春の月影

三島江

浪路より目さそれるる森の松風は霞さえなき浦のひかり

春日野

春日野やこその秋の花は深し山は神たえ志かなれん

三輪山

花の色よそとおりもぬかさしは立花の松原の春は夕暮

葛城山

野みち糸そかかる春柳の葛城山の春雨の空

[illegible]山

[illegible]

伊勢海

[illegible]

志賀浦

[illegible]

三嶋江

[illegible]

住吉浦

[illegible]

[illegible]山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹上濱

[illegible]

湯殿三峯

[illegible]山

[illegible]

[illegible]

小倉川

[illegible]

大淀浦

[illegible]

四季浦

[illegible]

東松山

[illegible]

大井川

信太杜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仲秋澤川

[illegible]

仲香保浜

[illegible]

天香久山

[illegible]

大江山

[illegible]

難波江

[illegible]

義豆沢牧

列てなをしの[illegible]

松浦山

[illegible]山やまとの沖の雲海そなる[illegible]風よ秋い[illegible]

秋新

初瀬山

初瀬山秋[illegible]

立田山

[illegible]田山紅葉[illegible]秋風小[illegible]

須戸滝

[illegible]滝の[illegible]

高雄飛

高雄飛て秋の[illegible]を校て次秋風

水茎岡

[illegible]

小倉山

[illegible]山[illegible]

宮滝山

[illegible]

稀[illegible]八十[illegible]

常盤山

秋[illegible]

三室山

[illegible]山秋の[illegible]

[illegible]園山

[illegible]の野分の風ふきしぼるとて

伊弱山

いと面白雲風吹てて秋月の宮ハ時雨ふるとも

生田沢

人をもうらにやとうつ[illegible]の関ゐる面の池に秋月新

清見関

きよみがせ関路こゆる秋風にいやをさらに波の音

武蔵野

みちのくの長い道にしかわかなし秋あはれなる虫の声

伊吹山

[illegible]ふきの山の秋の雲をはらひ[illegible]

化粧料里

さらしなや月の里人[illegible]

白川関

[illegible]

野鳥潟

[illegible]

四石潟

[illegible]

阿武隈川

[illegible]

名所 清瀧川

清瀧や波に散るなる白玉か人の袖をもぬく月哉

小倉山

をぐらやま峰の紅葉心あらば今一度の行幸まつと伝へよ

住吉海

住吉の松のはるばるやうらぶれぬ海をかけてあさる浦

野

名にしおはば真葛はいかに秋の風

田養沼

あるとてもあみの沼はあまたあれどその神ぶるの乳山

のん

名の取りはやうやうに乳山ばかりわかて野道あさらふ

清滝原

時雨ふる山の雲ゆゑの月は清滝の里

安達原

黒髪のあらしはもゆるあらし果て袖ふる雪の安達原

同橋山

雪のうちは色いろもなき松のみより春をしるらん

鏡山

行くすえをみの宮の月にうれさはよりうつる紅葉

名所 伏見里

すみやすみの里はて花見もいくよ乃人あるらん

霞浦

[illegible]

石淵社

[illegible]

祝波山

[illegible]

和泉

[illegible]

益田池

[illegible]

[illegible]

阿波手社

[illegible]

志賀須香淚

[illegible]

須岩橋

[illegible]

儀乃浦

[illegible]

守山

[illegible]

伊野舟橋

けてあに野中に舟を思ひをとこのあり

安穴沼

人心のうら沼のうちにすやわらん

松浦

逢ふ野沼のみ花やまれぬ為ひなめも

鉛断橋

あつまちのをくえのいもつるあをいふ杉の神ひとの家

三熊野浦

みくまの浦のあをふ雲のいれぬひを行やあをでん

鳴海浦

ちはしのとなりみの浦のうら船うら分をもしてゆきん

二見浦

むかしけぬくみの浦のうらよりてもあ夏ちへ

名取川

をちのなら沼そのくこの名川世紀あ神ゆをとも

雑部

芳野河

吉野川のくき流しをく行の人乃思ふ人をゆこなに

鈴鹿川

鹿流をくこの河の水のうきはのくきものみて名

不尾山

姉の林小はそこし立をく立樫を近人を知をれあん

還山

[illegible]

海橋立

[illegible]

[illegible]川

[illegible]

鳥羽

[illegible]

辰市

[illegible]

次飯盛

[illegible]

布引瀧

[illegible]

長柄橋

[illegible]

玉川里

[illegible]

生浦

[illegible]

作良山

[illegible]

淀藤野

かりの人の夢かよひもかへしの秋のさうけ　四方乃志ら雲

角田川

こゝにしるされ宿かりんいはしたのそこの秋の月新

鶴摩市

夢も本色ちらしやかきつはたかつも落さうん

若浦

わつの国やこゝ称ちらうもの浦にきこゝを浦やはんん

金坂関

志ゝ坂関の月も雲ゝ坂乃関の清ゝよ新ゝみ新

三津濱

月のこゝ海ゝ浦ゝ濱ゝ月をみゆる松ゝ移の夏

建保四年四月十九日　松延春新

庭の松ゝ年ゝかけの雲乃下葉もそゝ濱ゝ

前右大臣継見此會返上時出席作

かゝみもものみゝをゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ

西行　出家ゝ

うゝゝを秋ゝつゝん雲ゝ

同ゝ實氏ゝ

ゝ梅花をゝゝ

ゝ雲ゝ他ゝ

ゝ朝長法花経

ゝ六位ゝ

ゝ中ゝ

年ゝ月ゝ

遊

[illegible]

其後又進云所[illegible]
[illegible]やさい我身よりの[illegible]

三月十又日比同[illegible]進小野宮[illegible]詩歌合

春雨

[illegible]

社頭花

[illegible]

同比花

[illegible]

春風ふきうつるやいなみの[illegible]西の山[illegible]

夏

[illegible]

湖上月

[illegible]

杜間月

[illegible]

同家月

[illegible]

[illegible]

同比二百首和歌

あるじの年ゝの月山ゝ霧をひてまい来り給ふ

初雪乃月移のゝ百かるゝ孫宮たゝの鶴もゝみ氷

さゝ波ゝそめ行ゝ紅葉ゝ今ゝ盛ゝ若葉つゝもし

春日野ゝ陰ゝ霧れの空ゝ風ゝ吹ゝ萩の焼原

行ゝ山ゝ物ゝゝ移ゝ陰ゝゝん人ゝ思ゝ秋ゝ

いはもゝさゝ入ゝの月乃音ゝて思ひゝ出ゝ乃音ゝ

文亭二首落

ゝ山ゝの月ゝゝ風ゝ吹ゝ陰ゝ来ゝ

蟬乃ゝ音ゝ聞ゝ秋ゝ至ゝ初ゝ

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ宮ゝ

ゝ

乃ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

小山里乃ゝ月ゝ雪ゝ

山里乃ゝ月ゝ雪ゝ

月乃ゝ月ゝ雪ゝ

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

秋十二首序

ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

秋ゝ

山ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ雪ゝ

志られけるとの木風乃種見をことそこし竹まつの名に
秋まつ比とゝ見えゝとなるの紫かりし紫も今き時雨なれ見
ちふ人もうちかくに秋の松く山いたゞみわけぬ紅葉ふゞそれ見えむ
もり月乃たつ峰より此山かけてよ紅葉ふんたゆくよりの虫の音
さにてことにあつ紀に秋もこしまこと開のゆくや此久万雲
尖游や花まゝのとによりあつぬる園の尾かたのへしなえいきぬ見
名を見てはおちいれかりん笋紅葉ふうしるてもみし水江の月
大井川かへる筏のえかくもぬれぬとうしみえ乃紅葉て
名こすら尾花かそよしもあはれ之かすむ虫秋の名残はうらい
高砂の尾上の月やふけぬらん門田もみえて千鳥啼なり
山里はまかきのたつき露しれぬをきさて中は風も寒き陰も

まひの手に定か川面とまく程よわくまとりさむる暁乃夢
鴫乃なくかり田の面もこほるより今も皆水乃音
みちのく嵐そ身しく志くるなるおとは雲とや古る里の空
きのふ山にけふいへの音つれも絶て冬さき雪れかくひち
百敷や霜乃月れ影寒て庭火も白き山あゐの袖
草枯の入江乃こほりかきぬるもしまかくる鳥の声さはくなり
ふりし雪れ雲ゐの月やさえぬらん霜ふりせる松にさえたり
名はゝ冬よそれとも見えぬ鶴の粉こゝ浪よ千年も立や
冬ふかき庭の木葉をみちかくるも津かりておもき年のくれ哉
竹の庭はこほりぬれは古る雪の松れもなくて鶯や越はる
と鶴は志をゝきされんて白露の玉袖をはりつかるへ

九さこれるあら磯波よりうるはしかりしかと
何ものさいて入江のあこうりよ方をうき草ぬしつそ隠
今更よ人やいるにとはるゝ水のしたにもたれかゝつそうに
人心のさとにもとゝかけろふの夕雲ことに何ゝてらるん
遠車いなを(沼)の浦れかり井菜をあるやうしん絶いろけとを
れく山のうみうれ式橋記まこあ人よ立やとて立ん
さるとも水を思ねんよたゝうて行ふ遠雲を月ま彩て
思ひ風ゝそゝこの空も志ゝなりかこゝろ形ゝ雲の景水
心ひもよ本葉の上に志水ゝうゝ一夜よ絶ハそりとも色
偽とおとひたゝも水ひかうきをもゝぬんゝりあゝ
ゝゝいゝ海の山秋の雲志ゝ夜を志ゝふてゝん

今ゝ夜思ひ絶ゝ東久雲ゝ志ゝ志ゝ分ゝ知ゝ絶ゝ
我袖や秋のけなる秋草のゝ人ゝ涙を形ゝ久ゝ夜ゝ形ん
ゝゝ川ゝ世月の月まのいとゝ海なみゝゝ海ゝ涙ゝ
男山ひとせの春ゝ行ゝさゝ雲なの桜ゝ春ゝ日ゝ
里人のとゝ月家郷より春ゝ世ゝ涙ゝ袖ゝ形ゝ
月ゝ春の松ゝゝゝ袖人のゝとに知ゝ月ゝ形ん
こゝひ袖ゝ知ゝ月袖や海ゝん海ゝん明るのゝ月ゝ雲ゝ
明ゝゝゝ志ゝのゝゝゝ霧ゝゝ志ゝ人の数ゝ人ゝ袖
山ゝ月の平ゝ月のみゝ戸のひまゝを行ゝ涙ゝ月新
ゝゝ行ゝ袖ゝゝき巣のいゝゝてこゝゝゝゝ世ゝ形ん
袖ゝ月ゝゝゝ袖山ゝゝ月ゝゝ巣の桐ゝゝゝ袖ゝ

中くよりたちつる人やるこもんわるもむ山のうつれば新
をを海乃海やあまれ　ををを入けようりるもきさ山のうえ
ゆふ浪ちるらに　かまりに入ぬそんん孫あまのはり舟
いくあひうみうるをの滝の波にはつ山ぬとおるあつて
百姓やみつき新の光の雲あをなる紙あまるあ貴もりわ
長れ中に民の海とのうつ中れ人よ去れて
雲のうちに光やとーちにあ〜むの年ら海山風をふく
和見山のけ永宣のひりるや去を知ん人うちの星人
風吹て光のとき山ぬ義義て宣ようゆう去ぬを雲
去うくん知る船乗乃うみるやうあても去ぬるるつ山ん
光乃ぬきそうれうふ浪ゆや去さ入るて梅のうて風

うみ行ゆみんの行乃うち去ぬ新海うて去乃うち
毎年さ梅の川乃立ふうり山ぬ本のうを春風を吹
いうゆん人のんををみうのあさうぬ浦乃去ぬ山ゆうう乃
梅咲器の苔ぬ流みをうを毛もひをへようをむ江系那
ううれ山うき新の梅うへん人のむーるをを
去をとーて花の盃ようを命乃ゆいうん年もへのうふ
去風吹をるにいをるんうひをのをぬうをふきて花を弱
海のくを吹月山の梅花乃ゆうう雪ををそん風
こきまうる柳梅乃うみ海うを雪ををそん風
春命を去の梅よ吹ゆまぬて光よ海さる山川ぬう
大うこの海ひるのうをうりうを山のくぬ光乃ぬてきい

行水の跡こそかはらぬつりしあやまちたれのせ瀬の見えけり
夕日さすむかひの岡は暮つくしをちの里は霞やくれぬる
山ふかき梢にまよふ風の音の花のまよひは雲や月なん
まろ人の花のくすしは家くともうきねとやいはまふ
夏衣きつれの里はけるしはれそ半去年の今日の[?]
玉川の里もく霞弥の月は暮や卯花さけるした[?]の花
河かみに禊しこまぬ草の名のうさはさらに都鳥[?]
時鳥かたらひ[?]の鳴く声や雲のうへそのよそに過るらん
夏引の手ひきの糸のかりにしや風もさはらぬ蝉の羽衣
夕ひかり蚊遣火の煙ふきなびく[?]竹の月[?]
池水のにごりのうき葉にかくろへ今はなかれなく鳴蛙哉

五月雨にかはらぬ比はゆふしも夏草の[?]つ浮波[?]の比
月もはや雲のはなれて夏の森のいかやゆ[?]暁の空
早苗とるたごの夕日もわかぬらん夕日も夕風や涼しかるらん
夏山の月の[?]や[?]ふ時鳥過るらん人[?]と[?]かくとも
夕月夜雲も涼しき松かげは浅ちもる人のひとつの心
きひてもきそのや梓弓[?]時鳥この[?]の月は[?]
秋やまちたのしむの[?]浪の花のはなに時もしる
けさよりや昨日たる庭もおくにいかゝ秋分衣秋風そ立
初秋も[?]は[?]秋風そたつ人に出るあまの[?]
吹むすふ[?]秋風の葛のたにまめの松虫の声
むさし野の萩の[?]秋風に下草の露や[?]

[illegible]
大宣の[illegible]
世[illegible]
立田山さえて[illegible]
[illegible]
[illegible]
あさ山の[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋ふる[illegible]

稲風は相の[illegible]
山人の[illegible]
紀[illegible]
音羽川秋[illegible]
紀[illegible]
[illegible]
[illegible]
いつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

春雨ハ河浪ゆけと池の面乃芦葺の池は春ハ海くらに
散ハ河より海さら庭は寛たつ秋て後乃ゆくハすくとも
秋やさむきこよひあら久冬の月をかゝめの袖ハ霜そ置て
志ら波よる海さの舟はかへしもに冬も衣ハ冬は月影
影さよふ月乃鏡乃池なまくもりもあらしの雲ハ渡て
山川の水もうすき水の面になくく浪とゝと秋の初雪
降つもる雪はあら年乃山里ハ冬籠くその浪たにも也
浦遠き霜ハ冴ゆる夜おもひて雪もかゝる冬の夜の月
月冴のいろかゆさよ浪の上光もあらぬ年の暮哉
なき夜嵐の音分は炉の霧浪なき冬におさまるめやハ
あくる年やハ立春く来たりの浪ハ秋をにもみてし秋くは我心なき

いつまでいかに秋よりの秋ふりとて枕さくらあぬよひくなゝすれ
忘らるゝ身の名やまくらき立田姫こゝとの葉思ひそめまし
思ひ絶えてもまうれしく夕暮の秋そ秋の物まかなけれは
うきみをひとそむきてても又いかならん世をへんの思ひからは秋んや
何かはの山より月乃冬にあかて芦月雲ハ枕その所ゞに
偽とおもふ心もさくらまくらなれたる海とゝかる又くれもまた那
ちるをたえてとうる風に紛ふのうきせの浪にこゝろれそふる
鳴ぬらて峯にかゝりて白雲や蕾を来る海も浪乃くる浦
あけつきの中鷹の音のなく夜あなをぬくのなあかなん
たゝの葉も我身志られの袖乃上ま雅と花のの年の木枯
暁乃光あを月よらてあてもいあそるす浦鐘乃音かな

とこの山下ゆく川のまやまもこゑあわせて何ぞかもとも
ひとしてもあをとしいはくよ松くの海賊乃ある景も波ゝらん
おもてゝ妙ちよひあつたのゝ小山の原乃秋のあらしを
人公ゝゝ川の清瀧ゝ水もとみよ宮乃秋やゝく深ん
秋をして昔しを紀伊の松よりあることの景も形ゝ
家ゝの思ひや人ぶるゝんいつくも秋乃月ハ月ゝとを
古ハとをゝこゝ淋もみゝきあて月もむゝの秋とゝハゝる
前代を思ひ乃小ゝむとひ為てよゝゝぬけと思ひもゝ
泉のゝへよとむもゝるゝこゝ火の新をゝ形ゝ乃空
今夕よゝ原乃人もおゝゝ吹ゝ梅のひをゝの月のゝそゝる
むゝゝみゝ代ゝめたよゝらゝ山をゝ底ゝくゝもゝ月乃新

秋人ゝゝ秋ゝ乃ゝ春の菊ゝいつをゝ人なゝゝ伝ゝゝん
五秋の花もゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ秋ゝ久ゝゝ
黒ゝゝゝゝの乃ゝゝゝゝん覚乃ゝの月ゝ花ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ乃秋ゝ乃月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
いく秋もゝゝゝ花ゝゝ小堂ゝ月ゝゝゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ

同八月廿二日歌合当座　秋月ゝ

横雲ハゝゝゝゝゝ山の月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

夕時雨

秋月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源山雪

積の雪乃つれなく多ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

羇中恋

海辺恋

同廿六日當座　夕草花

古寺月

宮山路

山里の

号百恋

大ぶこの

寄石恋

号草恋

同日當座会

雑野人恋

同廿七日當座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同九月十三日 [illegible]及深更之家孝衡(はかり)

[illegible]

[illegible]

當座月前作

[illegible]

月前松

[illegible]

同十月十六日當座　山時雨

[illegible]

江上月

[illegible]

曉更衣

[illegible]

同十月一日會　宝(定)山月

曉乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人もしれぬ海辺の芦ねのうらしらなみの浪よりもしたに雁鳴

月波不迴時日詠七十首之内廿首入次中

出雲のあしたの宿とはしに人はしらぬ事のあるかなしさ

下もゆる恋ふるもしらぬ人のためわが身にはかなつけてわるかな

我宿の庭の秋の花盛りなる月人乃色を花に見る

夢ぬ羽風のうてもなびかぬ秋の毒乃色はなくなれ

さゝ姫の柳乃ゝ〻いとゝ色みどりの浪もとく後

待ぬまに山乃ゝ〻そゝ〻くなん夏もすゝむ春の舞

ゝ〻ゝ乃ゝ〻ゝ〻山は梅花雲吹まぜて春風そふく

咲よりを山すゝ〻ゝ梅花色ゝ〻つゝとゝ出わゝと

多賀の松浪ゝ〻ハ〻梅ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻の人かならん

梅花

まゝ〻のゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻

[illegible]と秋とゆきてのぼるより北なる秋乃ゆふべ[illegible]
秋らてあきはぎ[illegible]原よりまさ[illegible]高や我衣手乃露やそしぬ
[illegible]ハ[illegible]こ秋ゝ[illegible]る[illegible]の名を[illegible]ひ[illegible]しる萩の上風
吟風と[illegible]と[illegible]ひこの[illegible]秋山より秋い[illegible]
秋いそて[illegible]の[illegible]つ[illegible]き風乃[illegible]秋
をゆ[illegible]毎山下風[illegible]
大[illegible]この秋乃[illegible]やかこ[illegible]の[illegible]ひ乃松出の[illegible]
山川[illegible]の波乃[illegible]
二[illegible]浪乃玉[illegible]秋の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]に[illegible]秋風の[illegible]
秋中の[illegible]夕[illegible]白[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同廿六日 當座 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同七月一日 依日蝕 人々参籠一夜会

同廿五日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

嵐山の月をながめて山の上の
月にあかしの浦の秋の夜の紅葉を
同十六日　當座発句会　冬宣月
山の井の月のかげをうつすらん
[illegible]
釣落葉
[illegible]
[illegible]
夕時雨
[illegible]
同十七日　當座発句会　浦千鳥
月の[illegible]
[illegible]
初雪

[illegible]
[illegible]
[illegible]

菱月

時雨降る一声の初しぐれ降るや河つきに散る紅

秋雨

東の原に秋ぞ来にける白露の数をかぞへて数ふるかな

名風

紅葉をあらしに吹きて散よりき乱れ

愛意

思ひ初しかたの名を称て面の松を昔の秋乃久誉

同廿二日　水郷会　當座

立田川ながしやまとの紅葉の錦なれ

風もしみるやあらのひをつて衣をうつ声流の里人

多しまやあとの波のあさ霧よ方をかくして夕を告し

同月　採題詠歌　當座

夕雲の霧をとゝ霧とゝゆんら秋風ふ雁の声をの

むしひかくるこゝろひの乃狩をなまて夕を嵐の月

同江當座　寄合　朝千鳥

伊勢のあまの釣舟月烟空よりたゝ声も浦の浦ゝ

夕川音

夕日さしてこなたに山へ入れて谷の小川よ鳴れ白雪

秋炉火

山ゐの柴かりくゝるゝ炉を乗せのうつ火

言出意

[illegible]

沒久意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同十一月雪中会　冬山霧

[illegible]

冬枯叢

[illegible]

冬開月

[illegible]

冬川風

[illegible]

冬海雪

[illegible]

冬り雲

[illegible]

冬氣意

[illegible]

同夜雪光　深夜雪

[illegible]

冬野意

[illegible]

同廿一日富座等合浦急雪

[illegible]

川千鳥

[illegible]

霧中月

[illegible]

同十二月一日八松尾社行幸ゆ朝詣て月

路以高下桂河乃浮橋渡狂樂詩夏

鎖紛而絲及黃昏景気面白てゆう

[illegible]

[illegible]

建保六年二月廿一日内〻等合

関路曉霞

[illegible]

野外朝鶯

[illegible]

山中夕花

夕月秋空[illegible]

旅宿出月

[illegible]

春夜無恋

[illegible]

同三月日吉社参時

[illegible]

志賀の浦や山のくもりぬ月波の上も浦の海

同三月一百内こゝに系議定言物語伊勢

人進物之次ニ詠十五首和歌進之歌会儀

之由作り仍不注之同五月海月内こゝ合

春恋

[illegible]

[illegible]

夏恋

[illegible]

[illegible]

秋恋

[illegible]

白露乃をくといふけしきよりてい[illegible]

冬恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同七月七日　當座

七夕のうはべなる琴ふし妙のことひをいとて知る

同十二日　當座　同月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋朝風

又日當座

萩[illegible]

秋夕恋

[illegible]

秋恋意

妙の[illegible]

同八月十三夜妃殿清涼殿詠池月久明辞臣

應製　臣上始于今夜　題者右大臣　序同儀師

同講師定家卿　右下講師　範時

[illegible]

同九月二日當座　深夜月

さ夜ふけぬ[illegible]

暁時風

いつるに[illegible]

[illegible]

立田山あさとを雲のをりはへて時雨をそへて落る紅葉

田家雨

我ゆへの月見ぬ小田の秋雨もあはれ深くぬれ

藤樹会

第拍しとしとふるしぬ初雨のこの里人に袖なぬれ

同詠

七夕を雲間待て人と会てまつ夜は更

どしぬ秋の夜ひさしかふりを舟よみゆく天の河波

天川なかれてさしも秋風の吹ぬ秋の夜

ひさかたの雲まもえぬ天の原あれ行て天の

月雲のしらなみ立て人さの舟に秋の夜

外山の秋風ちらす夜ゆゑ天の川音いまやくらん

久しらぬ月のひの宮もしらり秋の月

くれ方の星のひかりをうつしてもまつ夜の宮の

月十三夜会　姫山月

ちらす秋の夜ふかしぬ山ちかきぬ月乃高

秋野月

くれ雲乃ゆくへ深ふかしゆる野原より出る月影

姫庭月

ぬれぬ袖のうへ見ぬ山ちかきぬ秋乃月いろ

月廿又日　當座詩歌合　秋歌

雲ぬ秋の新月の光ぬれ行ぬ松風の忘

[illegible]

月九月尽

雨　當座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為をつとめて[illegible]

兼久元年正月廿七日會　松上霞

[illegible]

梅花

[illegible]

月前二月五日内々八幡宮一座会

西中柳

[illegible]

月前霞

[illegible]

[illegible]

八幡宮[illegible]

月八月明社会合　朝野堂

小辺鶯

[illegible]

社頭風

[illegible]

賀茂会合　曉山橋

山橋花

浦帰雁

[illegible]

月次當座発句合　長風

[illegible]

春雨

池水の汀に柳[illegible]浪ふ[illegible]

長月

春ふる[illegible]

春雪

[illegible]

長地

[illegible]野へ[illegible]

春水

[illegible]

長田

[illegible]谷乃小川[illegible]

長山

白雲や[illegible]

春里

山ふきの[illegible]

長意

[illegible]山[illegible]の煙[illegible]

長筑

[illegible]

月二月廿二日　當座発句合　源山春

[illegible]山の[illegible]

[illegible]

水辺蛙

[illegible]

野蛙

[illegible]

被忘恋

[illegible]

暁更恋

[illegible]

月十八日題をさぐりて傳て當座　[illegible]山橋

[illegible]

隔霞恋

[illegible]

同廿三日　當座　[illegible]合　早春朝

[illegible]

夏暁更

[illegible]

[illegible]秋夕

[illegible]

冬深旅

[illegible]

霧中月

月影もうすい海とろうさの霧をいくよ越すらむ

蟬人愚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小懸草

[illegible]

秋夕雨

さて波よりてひきのいとをうゆしん草の露次第乃々の場

関搗衣

秋風にうつる衣の袖もなれ物をたつ里もうつる月の庭ん

庭蟋蟀

山里にうつる人のもとまでも物てうつる秋乃夕べれ

名取月

山風よ[illegible]れやをくれ[illegible]ん雲よ[illegible]ぬ[illegible]の月

牡丹雪

[illegible]

月八月廿六日

[illegible]

月沈尚庭　月晴曙月

[illegible]

関秋月

こゝちもち花の姿[illegible]や富もこゝ[illegible]

月九月六日　富座　霧意

我意[illegible]

影庭月

我心[illegible]人乃[illegible]

同七日内〻進日吉社会　源義経出陣

あけの月くもくらき彩雲のかけを明て遠の秋霧の月

遠山曉霧

明ぬ〻山のいつくよりか雲乃とをゝ乃月

社頭松風

くもの出ぬ〻まの松風よ嵐乃秋いかをとを

同進十禅師　暮天関雁

秋も暮ぬ人まの空の夕雲よりうゝれの初雁の声

秋景海面

秋山のよもの夕雲乃夕間あをさへ入ぬ〻まの海

湖上眺望

子日

若菜

春乃さやちゝ乃花よ海乃ふ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

三月三日

みちゝせ濃花よ海乃ふ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

菖蒲

春乃さゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

三月尽

春風もいとゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

同三月

一年は二てふ去をはらむとやみもやまひの苦れ声

鶯

うわつと吉とみな梅うまをのれうろふうぐひす此声

霞

凡国せんうもう海の果の明の春乃春乃海の波

長女

海人うう宮乃笠乃はるく雲にうらめ吉雲と海

梅

まつしあれと生ちうへもことうに新の上花梅此初花

柳

乃ち姫の手傳乃糸のお柳清ぬきとあて吹る強へ

落花

初瀬山うとりう雲もうう日此竜の信ち吹あうう

躑躅

乃ち紅乃ちいとをつの人海の岩つし花こてあ山を彩

歌花

山ちきの岩乃信乃行れきうみうこもうう吉乃糸

藤

これも又ちりめう岩乃乃春あうや小ちき牡よか陰春乃

更衣

梅文の吉氏春いめきうへて牡とそうめ春のうれ氏れ

夏衣

久方の空も涼しく秋の月

端午

きりぎすの鳴くこゑにふけゆく夏の夜の月

納涼

山風の吹くこしたにこゑ涼しきかの葛の下水

暁夏

鳥の音をきくあけぬるしのの風

恋鶴

みをしれる鶴のはねもやむしの秋

蓮

風のすゑ蓮のうきぬ葉乃ひさしぶりの月影

郭公

鳴きてよのあけぬるこの時ひもいれぬ人もこそけ

恋

夏しらぬ人をうらめし浦ごとに神かけ[illegible]

首夏

[illegible]の松風ふく浦ごとに[illegible]

立秋

[illegible]の[illegible]の[illegible]

早秋

秋きて[illegible]月の[illegible]

七夕

[illegible]

秋興

[illegible]

秋暁

[illegible]

[illegible]

月

[illegible]

菊

[illegible]

九月盡

[illegible]

萩

[illegible]

菊

[illegible]

[illegible]

三室山[illegible]

鹿

[illegible]

虫

[illegible]

蝉

秋[illegible]

蛍

[illegible]

書

[illegible]

[illegible]

初冬

[illegible]

冬草

[illegible]

蘆雁

[illegible]

炉火

[illegible]

落葉

[illegible]

霧

竹叢の霧乃うすき色の[illegible]

雪

[illegible]松をうつす[illegible]谷[illegible]

氷

人の身にうつり物も[illegible]

霰

[illegible]

佛石

[illegible]

風

[illegible]

雲

[illegible]

晴

風[illegible]空[illegible]

曉

[illegible]

松

夕日[illegible]

竹

秋の夜ながつかり　如月の比より春の九年

草

生て民の美ふよりそ家もちあるや秋風の吹

鶴

秋かぜ風ふきかひてきこゆくう位嶺ふつの谷声

猿

月の長ふふれのうれ此声ふかうきき所純めてそ

管絃

如月の春を初の風吹そ人家かさまし梅の声をつく

文詞

ぽ月くに秋ふりかの美ふ月に白の種ふそ山ふ人ふ云の景

酒

入日ふ秋の立えにゆふけて月ふ春の寒人

山

秋ふふ山のふ本陰の月ふ山ふ雲ふ雨ふ人ふ

水

谷川ふをふ人ふ秋ふ春ふ山ふ冬ふ月ふ波

禁中

ひそ中ふ千年の秋ふ月ふ人ふ世ふ月

故郷

てもあれて月日や屋ふ古ふの月ふ秋風ふ吹

古文

みよしの吉野と言ふ所は昔は松やをる所

仙家

ふるさと住む人の物ふるしやゆふ吹風に松ばら

田家

さびしさも思ひなれてやすむらん軒の篭火秋の夕暮

隣家

うたてそくらかこるゆふ暮ときこゆる近き鄰へて寺い

山寺

ふるさを心しらとて住むれて横川の月をみるもん

仏事

ふるの山ふる度をうゆかもとそれる為松ばかりも

眺望

ひるまもしらぬ雲と波とふわたる物の霊の吹上の浦

餞別

ゆく春をとゝふ湖をとゝみ思てあるん里てゝ聚る月新

行旅

越てゝ山ちのまゝ宿ふ山ちのまゝ宿ふ雪ふ雪

帝王

大ゝ国をゝ治ゝる人の物ゝ上ゝ

親王

九重のゝ内ゝ裏の三ゝ月九重ゝ宿ゝる月九重ゝ新ゝ

宰相

[illegible]

[illegible]

此御集以一品式部卿宮令校合年

于時應永貳暦初冬日

後二位大納言

実名判

以百首雖不入紫葉和歌草依為御製私以墨加書之耳

墨無後鳥羽院
朱点定家卿

百首和歌

順徳院

春

風さえて池の氷の隙ぬれ水のみ何ぞ流れつる鴨

風波の池の氷の下なれば鴨の下なる心ぞ知る

見渡せば霞の中に咲ぬ花の色乃久風

霞の内の花の色に霞むとも色は花とも見乃久風

朝陽舘房暗暁風狂候色乃由元頁俱鄭存旨

紅乃由先家中仙

嬉しつる松の梅の木の下に見れば色は新菜

梅の木の松のくらべて色乃風吹て心涙雪

はるにうつれば雪の風あらいよりかひて感信雪保

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の山の[illegible]花の[illegible]
心[illegible]
其奥[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
須臾夢中閑落花
一生八旬之義紅葉黄落
乃悲[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風雅

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鄙を今晩用し

[illegible]やなけ無てゝの杜乃平子[illegible]

清めよらもん[illegible]

[illegible]毎度弱る眼し

雲

山峰のとゝ紀乃尊いゝのとし

下白又陸奥し

[illegible]

[illegible]

前五孝元天乃就仙門の就相遠し今[illegible]

旦雨白し

[illegible]

風情まゝ奥味し絶る其源起新恩[illegible]

纏次之子細し乃[illegible]

[illegible]

京氣まゝ如西眼弱し

[illegible]月の桂[illegible]

交森毎乃時雲慕桂月の清麗姿詞高而

鄙及し歌

[illegible]月毎いまゝの新緑し[illegible]

[illegible]月のまゝの新緑社の[illegible]

よ山へとゝ[illegible]

[illegible]

軍の松入日深くさゝ山をそめ乃ちゝ小田に早苗丈也
入日乃山陰をそ紫のゝ苗色もうりあさゝ山の景
氣さ成ましゝ

とゝ乃てこゝ山もの遠望を二村山のこゝ乃ちこゝ
又白雲一字恵秀遠山郷 玉光明照耀殊勝作

数世界のそらゝ人乃ちゝ乃ちゝ乃ちゝ

戀

[illegible]

いつせもむれんもたちはあるさかきのあるにはひきんとの[illegible]

[illegible]

[illegible]

四首始艶義藻しゆ

偽りなき世なりとしいてせむらきてこいあみ者れ元

ひ夕れ指辭氣ヒ

[illegible]人をうら見乃[illegible]

見るか[illegible]心の渕よりあらて神又弥勝し

見てもあ月の海ゆ[illegible]

鳥[illegible]の曉ちりもつ[illegible]ぬ人のみ[illegible]乃元

最鶯哢鳴征馬嘶てゆき[illegible]乃曉

乃元[illegible]

如[illegible]

[illegible]の心祈を勞りて深所と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月を打ち眺めて夜明かすうちに、[illegible]て、他の酒に
不似眼陽花畫着うらうら光も春さなり　よしへ
[illegible]ふるまて、彼の浪古今の面影に[illegible]
蕾をうに打ち[illegible]ひ、[illegible]の別に成小雪[illegible]
ふるさとの成まるかな　又孤肝入骨甚深也孤[illegible]

雜

尺う飛滝乃白わいの義[illegible]風の[illegible]
滝乃白泡乃[illegible]音よ山風の声も[illegible]
山中[illegible]
夕ぐれ日山のあるに成もてにそて[illegible]
夕陽入の晩雲[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

貞永壬辰元年
嘉禎丁酉三年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

略如斯然而僻案事ヨサニ以愚推直改訳

天正十五中夏初八　通勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弱をあて之山の
元を無元久人遠永之此人清世乃
所低不論和学忠之孫市一日寄
寄之罷時也

時ひろ之山乃海を
依地揚山合庭忠山保四年百元
家儀山の山のもとに時風しを
自贈を拾て人種戸云雑物山
下参 御前清範贈上を高低所

おけ山者御畏之也を養少山乃
を浪中子先又為出給
あふをてを山の蓮の
三十一高に用郷ふ那に只依地孫
人漏し

結松数軸
又不子細山

布為私
又稲妙し為紙文元年序多
当世し 是紙 言葉用記忠

年間に義朱、五国鐘作
志を名字に以上後伯耳に
絃楽の尋陽琵琶曲

けさのまに月はうつれど
つる尾の月ぞ秋の近
人伝に聞し物語 年旅人好詩杯と思ふ不平
世にをり侍る昔の跡

夏の日は木陰にうつる
又ふ化の細松の一入明物語

色領好にしを年一切前生に
夏七宮居はしの白は花尺 幣
かさしの物もてみのの者
いにしをも石に雨に雨物語しの毎
数食題を会思ふ

むかしあの雲ふるさと
を京氣浮眼林奥風に思ひしを
ふとりの古人ふ除に西月雅を
みて義志にんしの毎ふりに
ふ外者の色はけ奇世に賞歌に

後多如集し仕候事ニて不取敢
世間ニ

武蔵柳

同流師ゟ之ゟ和し世
奇写て入千載集ニ世ニ出
歌何事ゟ詠て紙ハ七字始終出
候柳ゟ後世ニ之ゟ以凝候事
色葉帯抱名百何ニ変て発ニ之ゟ
論ニ之多ゟ不て詠置ニ思ひし事

龍僕隨ニ之思得候ニ右様
世ニ移ニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

待立

同廿三日當座会　暁月花

旅衣ゆきてはいつの月のもとにかくれぬらんと

夕歓会

月東谷のけうとくなれてにすむ山路のすゑ

雪出遠

のゆきもまれにとうるとのくるとなく人ぞ

後朝立

今はまたつれなき月のあけぬるにまつ

歓忘立

いそぐらんとはまつの月みやはかりの

同廿四日暁会　雪傳会

人もとるれとの月花雪とうるはのうらの人の

後朝花

年ふるとさくらの花のあるかぎりあくるあくるとあかしし

三月尽

ちるのうつる花ゆくはるのあとをしたし

獄忍立

思ふ人のいとまをもとめてはいとまをもとめて

惜暮立

ちるはなのあるかぎりはいとまをもとめて

同日月次ハリ御仁和寺殿御書

水道普請

夏秋月

[illegible]

[illegible]

[illegible]